

平成 22 年 6 月 25 日

遊佐町長 時田 博機 殿

遊佐町環境マネジメントシステム監査チーム

主任監査員 国府田 諭

副主任監査員 鈴木 たみ子

独自目標監査報告書

LAS-E 独自目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査日時

平成 22 年 6 月 25 日(金) 14:00～15:00

2. 監査対象

遊佐町役場

3. LAS-E 監査内容

【独自目標（平成 21 年度実績）監査】

① エコアクション(環境活動)部門	第 1 ステージ	A110
② エコマネジメント(環境経営)部門	第 1 ステージ	B110
③ エコガバナンス(環境自治)部門	第 1 ステージ	C107

4. 監査結果

部 門	平成 21 年度 独自目標	達 成 状 況	部 門 評 価
エコアク ション 部門	1 本庁における電気使用量 前年度以下	○	○
	2 本庁における公用車燃費 前年度以上	○	
	3 本庁における LP ガス使用量 前年度比 1%以上削減	○	
	4 本庁における灯油使用量 前年度比 1%以上削減	○	
	5 本庁舎における可燃ごみ排出量 前年度比 10%以上削減	○	
エコマネ ジメント 部門	6 環境に関する研修（部署別研修を含む） 年 2 回以上	○	○
エコガバ ナンス 部門	7 環境に関する情報提供 広報・HP で年 12 回以上	○	○

※ 達成状況：○＝達成、×＝未達成

※ 評価：○＝良好、△＝軽微だが改善すべき点あり、×＝勧告に値すべき点あり

5. 所見

平成 21 年度の独自目標について監査を行った結果、エコアクション部門、エコマネジメント部門およびエコガバナンス部門とも〇と評価しました。

各部門の取り組み目標はすべて達成されていました。エコアクション部門のうち本庁の省エネ・省資源は、基準の平成 20 年度に比較して 14～20%と大幅に削減されていましたが、これには一部の部署が別棟の「防災センター」に移転したための削減が含まれています。防災センターには本庁外からの移転もあったため、数値を合計して比較することは難しく、本庁における移転前後の状況を詳しく聞き取って監査チームで協議しました。その結果、職員の地道な取り組みは引き続き維持されており部署移転による削減分を除外しても目標は達成されていると判断しました。

平成 22 年度は、防災センターも本庁に含めて目標達成状況を判断する必要があります。その際は職員の取り組みの成果が直に数値で現れますので、今回の結果に気を緩めず継続をお願いします。

エコアクション部門のうち、部署移転が関係しない公用車燃費については、ガソリン・軽油とも平成 20 年度に比較して改善しました。とくにガソリンは LAS-E 運用開始前の平成 17 年度 10.34km/l に対し平成 21 年度 12.32km/l と、約 2km/l 向上しています。公用車の低燃費車への買い換えが難しい中、職員のエコドライブが成果を上げていると評価できます。

本庁における可燃ごみ排出量は、平成 20 年度と比較し重量で 19.6%減と大幅に削減されました。部署移転を職員数で見ると数%の減少にとどまり、移転した部署がとくに排出量が大きかったということもないため、部署移転がなかったとしても大幅な削減が達成されていると判断できます。これまで可燃廃棄物に混入していた紙類が資源として分別する取り組みが徹底してきた成果です。

エコマネジメント部門での環境に関する研修は、目標は達成されていたものの、回数・内容ともに平成 20 年度から後退しています。平成 20 年度に行われた、遊佐町の自然資源について住民とともに学ぶといった工夫ある研修を再び検討されてはいかがでしょうか。

エコガバナンス部門での情報提供は、平成 21 年度までは、毎月発行される広報紙に環境に関する常設スペースがあったため比較的容易だったと思われます。平成 22 年度からは当該スペースがなくなるため、広報紙だけに頼らない手段の検討が必須です。

全体として、平成 21 年度の結果は良好と判断したものの、次年度での課題が浮き彫りになりました。それらに適切に対応され、良好な状態が維持されるよう期待します。